

2012.07

ネキリムシ類の防除

(1) ネキリムシの生態

産卵：野菜畑や雑草地の地表面に近いところに一個づつ産み付けられます。

幼虫：ふ化後の幼虫は株元に生息し、下葉を食害するが、このころの被害はほとんど目立たないです。

3～4 齢幼虫になってから、苗の地際部を切断します。

被害は、5～6月、9～10月に多いです。

2) 防除するうえでの留意点

ネキリムシ類の幼虫は、土壌表面の近い所で食害するので、土壌混和する場合は、土壌表面に近いところだけ軽く混ぜます。あまり深く土壌混和しないで下さい。

前作の除草不備畑に生息している幼虫、周辺畑から移動した幼虫により、被害が出ます。周辺畑を含め除草し、除草後 10 日以上あけてから、播種や定植を行います。

表 1 ネキリムシ類に効果がある主な農薬

農薬名	特色等
ダイアジノン粒剤	接触毒性でガス効果もあるが、残効は短い。前作から残留して生息しているネキリムシに対して有効。直接根に触れると薬害を生ずることがあるので、土壌とよく混和する。
カルホス微粒剤 F	接触癒、食癒、持続効果は長い。作条処理の場合には幅広く処理し、土壌とよく混和する。
デナポン 5%ベイト	誘引物質を添加した粒剤で、接触感と食感の効果がある。株上から地表面に散粒する。
ネキリトン K	誘引物質を添加した粒剤で、摂食して死亡する。活動を始める夕方に使用し、作物の株元の地表面に散布する。予防効果は期待できないので発生を確認してから使用する。
ガードベイト A	誘引物質を配合した誘引殺虫剤で、速効的な殺虫作用がある。魚毒性力強いので注意する。
フォース粒剤	前作から残留して生息しているネキリムシに対して有効である。

カルホス微粒剤 F、ネキリトン K、ネキリエース K は、有効成分が同じ農薬です。

表2 ネキリムシ類に登録ある農薬一覧表

印：登録有り

農薬名	大根	カブ	人参	ブ ロ ッ コ リ	キャ ベツ	白菜	小 松 菜	ホ ウ レ ン ソ ウ
ダイアジノン粒剤3								
ダイアジノン粒剤5								
カルホス微粒剤F								
デナボン5%ベイト								
ネキリトンK								
ガードベイトA								
フォース粒剤								

記載農薬は平成24年6月7日現在の農薬登録情報に基づいています